

学校教育課だより

かけはし

「子どもにやさしいまち」

―「先生らしい先生」が御殿場市の大きな財産―

教育長 勝又 将雄

◆ 東名高速御殿場インターを下りると横断幕のこの文字が読めます。御殿場市は「子どもにやさしいまち」を標榜して、観光ハブ都市としての御殿場市は市外からの皆さんに「子育て支援真の日本一」をアピールしています。

こと、教育とは「未来への投資」と言われるように、単なる費用対効果だけでは測れない教育の成果というものがあります。御殿場市の子どもたちを「真つ当な大人に育てましょう」と訴えているわけですが、大変高い評価をもつ

て受け入れられている『ふじさんのように』は、こうした教育委員会の「思い」を「形」にしたものです。ゆえに、教壇に立つ者は、教員として、そして人として、年齢に応じた教育哲学を磨き続け、目の前の子どもたちや保護者、地域の皆さんにうしろめたさを持たずに正々堂々と教育を語れることを常々願っています。

市の戦没者追悼式や地区の追悼式において、中学生や、小学生の作文の奉読がなされました。その内容に遺族会から「励まされた」「頼もしくかつ

学校教育課だより
「かけはし」
【第 5 号】
平成 28 年
8 月 24 日発行
御殿場市教育委員会
学校教育課

た」の言葉を頂戴しました。夏休み前の校長先生、担任の先生方の「戦争と平和」をテーマにした講話が子どもたちに浸透しているからだと思います。

◆ 第四回となる「市教育フォーラム」は、今回も実行委員会組織で実施となりました。全体会、分科会を含めて皆さんの協力あつての「フォーラム」です。



基調講話で「養護教育の歩み」を取り上げましたが、その直前に相模原市の障害福祉施設での大事件が発生し多くの入所者の命が奪われました。その事件後の被害者氏名の非公開などの実情をみても、社会における「特別支援教育」の浸透が図り切れていないことを実感します。というより、犯罪防止・抑止には、「人の道」を粘り強く説くこと以外解決の道はないように思います。

また、「はごろも夢講演会」として基調講演の講師に登場していただいた白駒妃登美さんのお話は会場の皆さんの圧倒的な評価をいただきました。毎年この会の創設趣旨を伝えていますが、縁があつて、当地区に赴任されている教職員の皆さんには、きっと大きな財産となるものと確信しています。

◆ チーム〇〇という学校、教職員仲間の中で、自分を見つめ、日々育つていく先生方の姿を、教育指導センターの指導員の先生方からよく報告を受けます。熱く教育を語り、子どもたちと日々教育ドラマを展開している多くの先生方の一方で、本当に残念ながら

邪な考えをもつて、公を忘れ、利己に陥り、その場を取り繕ったり、陰に隠れて組織体を壊す動きをしたりして、気づいたときには取り返しのない状況に陥っている。実はこれは本県で不祥事を起こした教職員の自己弁明の分析です。自己や家庭を優先するあまりに、教育者としての自分を客観的に見ることができなくなつてしまつたと、処分伝達時に涙ながらに自己反省を述べ、教壇を去つて行つた方もいます。（報告書から）

教育者を目指す決意を定めたころの自分をもう一度思い起こして、ぜひ後輩たちにその「志」を語ってほしいと願います。人に語ることで更に自分の教育哲学が磨かれるものです。教育界の不祥事は、目の前に子どもたちがいるだけに、教育の「信頼・信用」の失墜を切なく思います。事件対処と同時に信頼回復に全力で取り組んでいます。信頼はあつという間に瓦解し、回復には多くの時間を費やします。不祥事は子どもたちの人生に傷をつけることの切なく悲しい重みを忘れてはなりません。やはり、「教師として

の誇り」は、子どもたちの「尊敬のまなざし」、保護者の「信頼」によって支えられていることを銘記すべきです。今年も「管理主事訪問」の時期となりました。教育の要は授業です。

◆ 鶴見俊輔という哲学者がいました。大切なことを平易に語る名手でした。座談で語られた言葉で、記憶にとどめた言葉があります。

・どんな子供でも家の中では世界一有名な人である。家の中で無名な子供はいない。そのかけがえのない財産を大切にしたい。それが、家庭・家族の持つ最大の意味だ。

・君たちのいろんな仲の良い人の思い出をエピソードで語ってほしい。いい人とか優しい人という観念でなくこの友達とこんなことがあった、あの友達とこんなことがあったと、たくさん書ける人になってほしい。

・最近「教え子」という言葉が死語になっている。先生方は「うちの生徒」と表現

する。生徒というのは、学校という組織の構成要素である。「教え子」言ったら、教師にとって大事な存在。師弟関係が遠くなった。

「先生らしい先生」が御殿場市の大きな財産です。なんといっても、子どもたちの元気な声の響く学校、幼稚園であることが本来の姿です。先生方には、リフレッシュされた新しい心構えで、秋の運動会・体育大会、文化祭の準備に着手し、さわやかなる充実の九月を迎えていることを願っています。

「今」を見つめ、

「明日」を展望する

本年度のフォーラムの開催にあたり、参加いただいた教職員の方々、実行委員や運営に携わっていただいた方々をはじめ、多くの皆様の御協力に、事務局として感謝を申し上げます。

本年度のフォーラムは、「子ども一人一人の未来を拓く教育をめざして」を大会テーマ

とし、本フォーラムでの研修が、毎日、子どもの指導に全力を尽くされている先生方に、一つでも多くの力添えになることを願い開催しました。

全体会講師の白駒先生には、「歴史を学ぶと、希望が生まれる」を演題として御講演いただき、言葉一つ一つから先生の熱い生き様が伝わってくるお話をうかがいました。

以下、アンケートから参加者の感想を紹介します。

・知性より感性！学びの土台となる根や幹を太くしていくことが、生きる力を育むことにつながると思うので、子どもたちの感性を伸ばしていけるよう、自分自身も磨き、幼児教育への情熱をもち続けていきたいと実感できました。

・「感激」「感動」「感謝」の心を育てることの大切さに、責任を持つ教師として、志をもった生き方を子どもに見せることが大切だと実感しました。

・自分探しではなく、先人を学び、先人を基とする、そのような出会いが人を強くする。そういう考え方をこれからの子どもたちにもってほしいと思うとともに、自らもそうありたいのだと感じました。



・志をもち、受け継ぎ、つないでいくことが、今の子どもたちへの指導に重要であることがよく分かりました。

・先生の言葉から「人からどう扱われるかで変わる」ということを学び、子どもへの言葉かけの大切さを改めて考えさせられました。人とのつながりの中で、心を育てることが、今後の未来が明るくよりよいものになると感じました。

・先生の笑顔を何回見られたかで、子どもたちが安心できる」という言葉を胸に子どもと接していこうと思いました。

・歴史上の人物から生きる術、自分の志と結び付けてしっかりと歩んでいる白駒先生の生き方に背中を押されるような思いをもちました。

先生方には、午後の分科会にも積極的に参加していただいたおかげで、研修会をより充実したものとすることができました。このフォーラムで得たものを、これからの指導に是非、生かしていただきたいと思います。

今後のフォーラムに、多くの御意見をいただき、改善等を要する点については、見直しを図りたいと考えています。また、より充実した研修となるよう検討していきたいと思っています。希望する講義については、「子どものコミュニケーション力UP」指導、日々の課題を解決できるヒントとなる講義、カウンセリング研修、学習支援の方法、他機関（PTA・地域など）との連携の仕方等の研修、「アンガーマネジメント」など、子どもでも自分自身でも使える「怒りのコントロール法」・発達障害児への「認知機能向上トレーニング」等の研修が、意見として寄せられました。

今後、教育課題における研修や教師としての資質を高める研修を、市としても更に充実させていきたいと考えています。

特別支援教育部会

A 分科会は、第一回御殿場市特別支援教育研修会を兼ねての開催となりました。今年度は静東教育事務所地域支援課の田中亮輔指導主事を講師に迎え、講義「インクルーシブ教育システムの理念を踏まえた就学支援の在り方」と、グループワーク「事例をもとに園や学校でできる合理的配慮を考える」の二部構成で研修を行いました。

講義では、インクルーシブ教育システムの理念や就学先決定の仕組みなどについての話がなされ、就学支援に携わる者（全教職員）が大切にしていきたいことを共通理解しました。

また、グループワークでは、事例の子どもが自園・自校（通常の学級）に転入、就学した時の支援方法を検討することで、合理的配慮（理にかなった変更・調整）について考えました。

以下、アンケートから参加者の感想を紹介します。

・合理的配慮の実際が見えてきたことが非常に大きかったです。ゆつくり事例を交えな

がら講話をしていただいたので、子どもを身近に感じながら聞けました。

・就学支援の在り方について、クラスに事例と同じような生徒がいたため、本日学んだことをこれからの指導や支援に役立てたいと思います。

・インクルーシブ（インクルーシブ教育システム構築支援パートナーズ）について初めて知りました。紹介されている合理的配慮の具体的な提供例をこれから参考にしたいです。

・小学校の先生と同じグループの演習で、小学校と幼稚園と違う立場で話ができ、大変参考になりました。

・分科会でのグループ討議はすぐに実践に役立つので有意義でした。合理的配慮については、教員間で話し合い、当たり前にしていくことが必要だと実感しました。普段からやっていくことがインクルーシブ教育につながっていくと思います。

研修内容を園や学校で共有し、子どものよりよい成長を目指して、子どもや保護者への支援に生かしていただけたらと思います。

【秋岡 智子】



不登校対応部会

B 分科会は、第一回御殿場市不登校研修会を兼ねての開催となりました。今年度も引き続き、市スクールソーシャルワーカーの和田昌子先生を講師に迎え、講義「不登校支援と自尊心・自己肯定感を育む支援」と、模擬ケース会議「相互作用を意識したアセスメントとプランニング」の二本立てで研修を行いました。

演習には、学校教育相談員、スクールカウンセラーなどの立場の方々に加え、教育指導センター指導員、子育て支援課家庭児童相談室、社会教育課青少年センター、子ども家庭センターなどの関係機関も参加しました。

この演習は、不登校対策の三つの観点「未然防止」（すべての児童生徒対象）「初期対応」（不登校の兆しが見えた児童生徒対象）「自立支援」（不登校状態にある児童生徒対象）のうち、「自立支援」に焦点が当てられています。実効性のあるケース会議にするためのポイントを押さえながら演習を進めました。

以下、アンケートから参加者の感想を紹介します。

・ジェノグラムとエコマップから見えるアセスメントの大切さと、子どもの状態や家庭環境、成育歴などをきちんと把握しながらプランニングをしていく大切さを学びました。また、会議時間を決めて話し合いを行うことも大切だということも実感しました。

・アセスメントシートの重要性、有効性がわかりました。個人で対応を考えるだけでは発見できないことがあり、集団での対応や役割を決め、担任一人の負担にならない組織づくりと対応を進めたいです。時間と人が確保できれば、これだけの内容の濃いケース会議ができることを実感しました。実践していきたいです。

・不登校の子どもの対応には多面的な視点から考え、学校だけではなく、必要に応じていろいろな関係機関とも連携を取っていくことが大切だと改めて感じました。

・不登校になる子どもは、教師や友達にサインを出すことがあるかもしれない。小さな兆しを見逃さない感性をもって、目の前の子どもに接していきたいと思いました。

参加者が自校に戻り、この演習で学んだことを生かして不登校対応に取り組んでくれることを願っています。

不登校の増加が全国的な課題となる中、御殿場市は今年度より、同一校区の小中学校が一貫して取り組む不登校対策の推進に向けた調査研究（平成二十九・三十年代は、国立教育政策研究所「魅力ある学校づくり調査研究事業」を委託予定）を始めました。この調査研究は、「未然防止」と「早期対応」に焦点が当てられています。調査研究は、西中学区をモデル学区として行います。この調査研究によって得られた内容を、市全体に広げていきたいと思っています。

【石田 善正】

幼保小中連携研修会

今年度のC分科会は、御殿場市幼保小中教職員合同研修会を兼ねての開催となりました。新しい印野支所を会場にして、総勢百六十名の先生方が参加し、印野こども園の実践発表、グループアプローチについての講義及び演習の二本柱と、希望者によるこども園の見学が行われました。

印野こども園での実践発表は、昨年度までこども園に勤務していた青木真吾先生にお願いしました。青木先生は、こども園開園当時から、こども園の教育課程編成に携わり、降園時間の異なる子どもたちの気持ちに配慮した教育課程の編成を考えました。また、午睡をなくして、体験型カリキュラムを取り入れたり、異年齢での合同活動を積極的に取り入れたりするなど、子どもたちのために新たな活動を設定しながら、こども園での保育の充実を目指していきましました。この実践は、昨年度の市教育研究奨励賞で最優秀賞を受賞しています。

以下、アンケートに寄せられた内容を紹介します。

・こども園での実践は、保育の現状を知る上で、大変勉強になりました。これからは特に、幼稚園、保育園等、互いの理解をより深めていく重要さを感じました。

・こども園の取組を今回、知ることができてよかったです。これからの小学校教育に生かしていきたいです。

・「子どもたちのために」という思いは、校種等が変わってもみな同じであることを改めて感じる事ができました。本日の発表内容を今後に生かしたいと思います。

グループアプローチについての講義及び演習は、静岡大学教職大学院 特任教授の石田純夫先生を講師にお招きして行いました。石田先生のお人柄から会場の雰囲気も和やかになり、一時間二十分の研修時間があつという間に過ぎていきました。

石田先生には、グループアプローチの概要からその種類、効能等についてお話しいただきました。特に人と関わる心地よさ、集団体験の喜びを、自身で経験できるグループアプローチは、様々な人と良好な人間関係を築いていくための有効な手立ての一つになるのではないかと感じました。

演習では、教師同士、子ども同士を想定したグループアプローチを体験し、先生方自身がグループアプローチの効能を実感することができました。演習前半は、異校種の先生とのグループで、硬さが見られましたが、後半には、グループのメンバーとすっかり打ち解け、笑顔で楽しく研修することができました。

以下、アンケートに寄せられた内容を紹介します。

・石田先生の講義・演習は参考になりました。和やかな雰囲気でのコミュニケーションを楽しくることができました。

・異校種でのグループアプローチ演習で、心も体もほぐれて楽しく参加できました。人と関わることの大切さを、身を持って体験し、とても勉強になりました。もう一度、お話を聴きたいです。

最後になりますが、保育中にも関わらず、六十名もの施設見学者を受け入れ、丁寧に説明してくださった印野こども園の皆様、本当にありがとうございました。

【小越 隆則】

学校安全委員会

今年度の分科会Dは、「学校リスクマネジメント・コーチング」研修を行いました。分科会テーマを「学校の危機管理」安全への日常のわずかな「違い」とし、近未来教育変革所所長 藤井秀一先生に講師をお願いしました。

講義では、危険を未然に防ぐために小さな表れに気づくことの大切さ、日頃の情報交換、職員間のコミュニケーションの重要性、何かあったらすぐに報告すること等、危機管理の基本を研修しました。

演習では、具体的な事例を挙げ、グループ討議を行い、子どもや保護者への傾聴の在り方について研修を深めました。研修会の実施にあたり、講



師の藤井先生には研修者側の要望や意見を丁寧に取り入れてくださったことには大変感謝をしているところです。前日打ち合わせをした際にも、「先生方の役に立つ仕事をしたい」「子どもたちの未来のために頑張りたい」との思いをうかがい、多方面で活躍する先生の仕事に対する姿勢も学ばせていただきました。

以下、アンケートから参加者の感想を紹介します。

・トラブルの状況は職場で話題に出し、保護者にも自分の言葉で直接タイムリーに伝えていき、初期対応を行っていききたいです。それ以前のチェックや子どもの気持ちをまず聞くことを大切に、丁寧に対応していきたいです。

・いろいろな場面で問題は起こるということ。それに対する人としての資質など、言葉一つの大切さを感じました。

・ベテランの先生方と、こんなトラブルがあったらどうするのか話し合う機会をいただけてとても勉強になりました。事前・事後にどのような指導をしていくべきか、今後も考えていきたいです。

【福島 英子】